

盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略

令和5年3月
盛岡市

目 次

第1章	はじめに	1
1.	戦略策定の背景と目的	1
1-1.	戦略策定の背景	1
1-2.	戦略策定の目的	2
2.	戦略期間	3
3.	本戦略の位置づけ	4
3-1.	戦略の位置づけ	4
3-2.	デジタル田園都市国家構想総合戦略、第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生 総合戦略及び本戦略の関係性	5
3-3.	その他関連する既存計画との関係性	5
第2章	基本方針	7
1.	全体像	7
2.	目指すべき将来像	8
3.	戦略目標及びKPI	9
4.	活動の方向性	11
4-1.	視点1「市民の生活」	11
4-2.	視点2「地域の経済」	11
4-3.	視点3「まちづくり・文化」	12
5.	現状（本市の主な長所と課題）	13
5-1.	視点1「市民の生活」	13
5-2.	視点2「地域の経済」	14
5-3.	視点3「まちづくり・文化」	15
第3章	デジタル化推進へ向けた取組方針	16
第4章	推進体制	23
第5章	情報セキュリティ及び個人情報の適正な取扱いの確保	24
参考		25
1.	デジタル田園都市国家構想	25
2.	市民ワークショップ実施結果	27
3.	市民向けアンケート調査実施結果	29
4.	盛岡市内企業向けアンケート調査実施結果	30
5.	盛岡らしさ	32
6.	デジタル化推進に向けた取組方針 一覧表	33
7.	用語集	38

1. 戦略策定の背景と目的

1-1. 戦略策定の背景

我が国では、2000年代に入った頃から、人口減少、少子高齢化の進行により、労働生産人口の減少、社会保障費の増大等多数の問題が顕在化しています。この解決策の一つとして、デジタル技術を用いた生産性の向上や新規事業の創出及び労働人員の再分配が国において提言されてきました。

また、本市においても、少子高齢化に伴う医療・福祉分野における負担の増加及び出生数の減少が続き、子どもを産み育てたいと思える環境整備が必要となっており、生活の利便性の向上や魅力的なまちづくりを推進する必要があります。さらに、特定の産業に偏った産業構造により自由に仕事を選択することが難しく、若者世代の市外流出の拡大の一因となっていることから、地域経済の活性化を進める必要があります。一方、本市の歴史的街並みや文化、人情といった資源・資産が“盛岡らしい¹”地域の魅力として評価されており、デジタルの活用により一層この魅力を伸ばしていく必要があります。

そのような中、世界中に拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、国内でも「新しい日常」と言われるような新生活様式（非接触、手洗い・消毒、3密回避等）が根付いてきており、これまでの“対面”行動から、デジタルを活用した“オンライン”行動（例：Eコマースの活用、配達サービスによる物品購入、オンライン会議等によるリモートワーク拡大等）への転換が、国の想定していた以上の速さで一般社会に浸透してきました。

2021年にはデジタル庁が発足し、「デジタル田園都市国家構想」が政府から発表され、2022年12月には「デジタル田園都市国家構想総合戦略」が閣議決定される等、国全体として地方におけるデジタル化の推進による社会課題の解決や生活利便性の向上、東京圏への過度な一極集中の是正に努め、従来の地方創生の取組の成果等を継承・改善しながら国内経済が成長していくことを目指しています。

このような社会情勢の中、本市として地域の持続的な成長と市民のよりよい暮らしを目指すため、都市のデジタル化を戦略的に推進し、魅力的で持続可能なまちづくりを図る必要があります。

¹ “盛岡らしさ”については、P.32 参考5に記載

1-2. 戦略策定の目的

本戦略は、企業や事業所、大学等教育機関及び行政をはじめとする多くの関係者との協働により、産業・交通・観光・防災・社会福祉・教育等の本市が抱える各種課題の解決と、歴史・自然・祭り・スポーツ・文化・飲食等の本市が保有する資源・資産の価値の向上を、デジタル実装を通じて実現し、地方創生を図りながら持続可能な経済社会を目指します。



本市が抱える各種課題の解決



本市が保有する資源・資産の価値向上



2. 戦略期間

本戦略の実施期間は、2023年度（2023年4月）から2027年度（2028年3月）までの5か年とします。

なお、変化の激しい社会情勢や技術革新の動向及び国が進める施策や計画等を注視し、それらの動向を踏まえて必要に応じて戦略を見直すものとします。

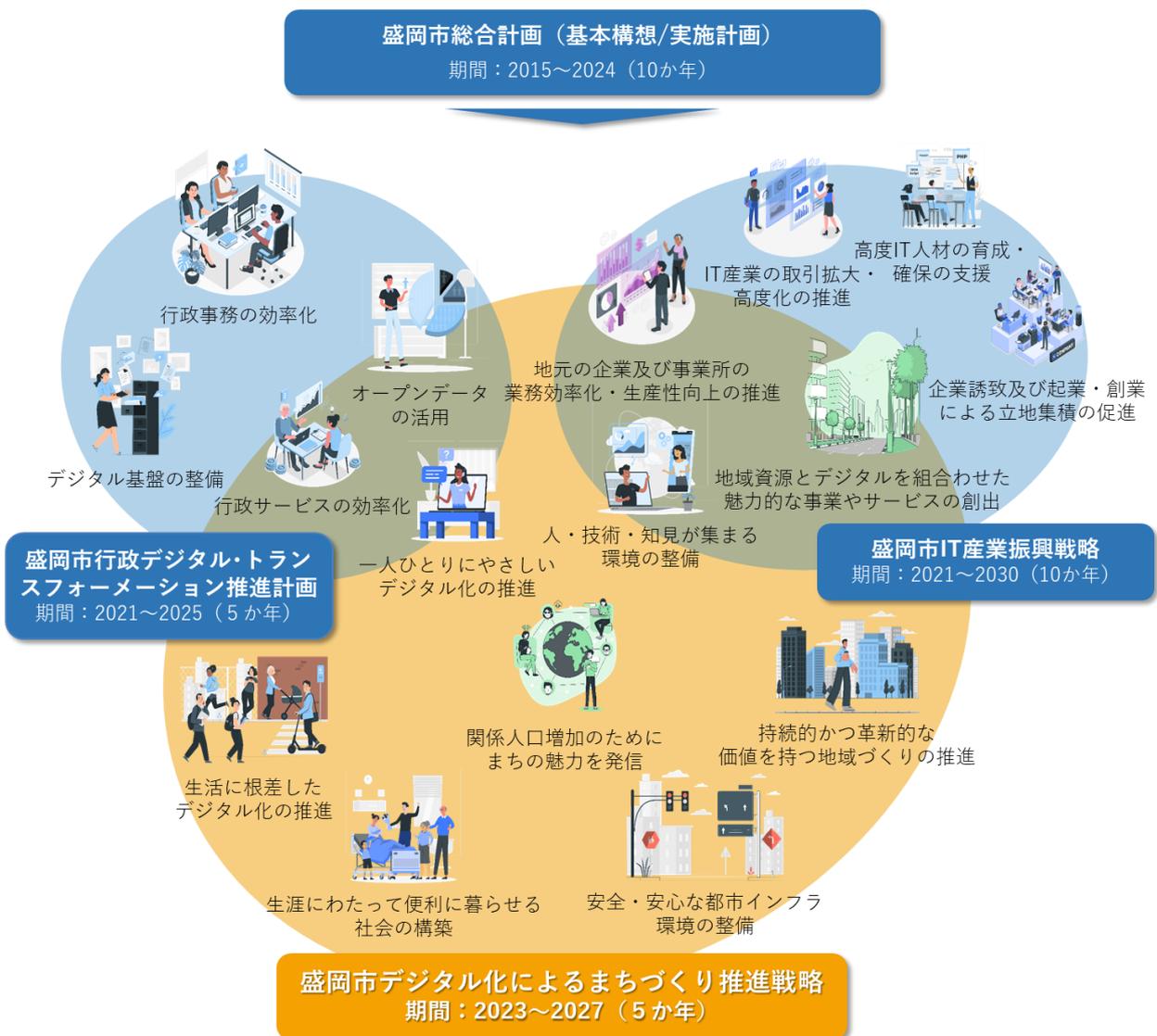
戦略期間：2023年度（2023年4月）～2027年度（2028年3月）							
盛岡市の関連戦略/計画		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
デジタル化によるまちづくり推進戦略			5か年計画（'23～'27）				
盛岡市	盛岡市総合計画	10か年計画（'15～'24）					
	盛岡市行政デジタル・トランスフォーメーション推進計画	5か年計画（'21～'25）					
	第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略	5か年計画（'20～'24）					
	盛岡市IT産業振興戦略	10か年計画（'21～'30）					
岩手県	岩手県DX推進計画		4か年計画（'23～'26）				
国	デジタル田園都市国家構想総合戦略		5か年計画（'23～'27）				
	自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画	6か年計画（'21～'26）					

3. 本戦略の位置づけ

3-1. 戦略の位置づけ

本戦略は、デジタル化の推進により「盛岡市総合計画」に掲げる将来像「ひと・まち・未来が輝き世界につながるまち盛岡」と4つの基本目標の達成（①人がいきいきと暮らすまちづくり、②盛岡の魅力があふれるまちづくり、③人を育み未来につなぐまちづくり、④人が集い活力を生むまちづくり）を目指すため、地域・市民のデジタル化の推進における方針を示すものです。

また、行政内のデジタル化の推進（①行政サービスのデジタル化、②行政事務のデジタル化、③デジタル基盤の整備）を目的とした「盛岡市行政デジタル・トランスフォーメーション推進計画」及びIT産業振興を重点的に推進（①IT産業の取引拡大・高度化の推進、②企業誘致及び起業・創業による立地集積の促進、③高度IT人材の育成・確保への支援）するための指針とすることを目的とした「盛岡市IT産業振興戦略」と緊密な連携をとり、本市全体としてデジタル化を効果的かつ効率的に推進していきます。



3-2. デジタル田園都市国家構想総合戦略、第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び本戦略の関係性

国においては、2022年12月に「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂した「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を閣議決定しました。

本戦略においては、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」に掲げられた4つの社会課題解決（①地方に仕事をつくる、②人の流れをつくる、③結婚・出産・子育ての希望をかなえる、④魅力的な地域をつくる）を、市民生活の利便性向上、地域経済の発展、魅力的なまちづくりの3つを推進することで、本市への人の流れを活性化することができるものと整理します。

また、人口減少対策や東京圏への一極集中の是正、地域における住みやすい環境確保を主な目的としている「第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と方向性が合致するため、一体的に両戦略を推進していきます。

3-3. その他関連する既存計画との関係性

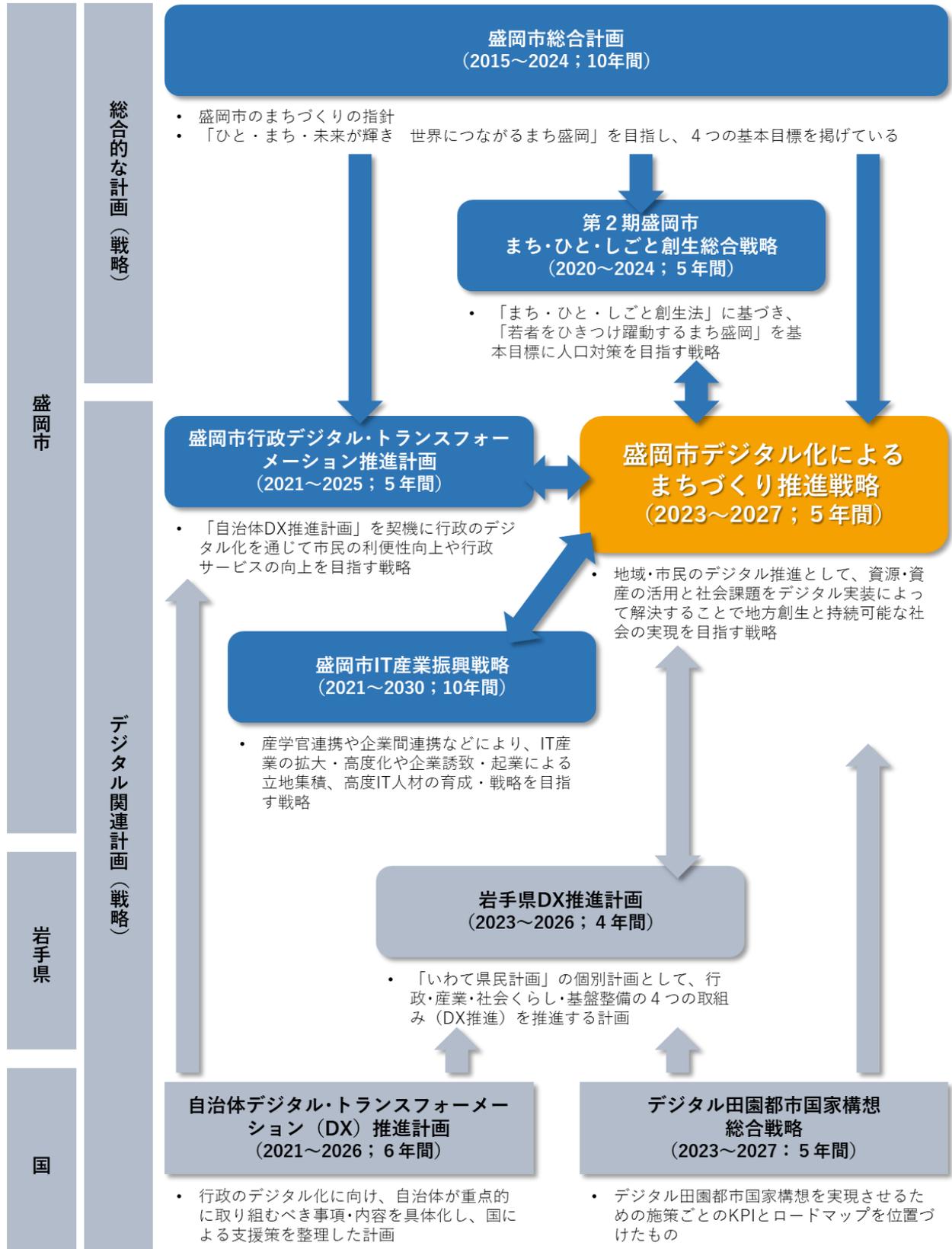
① 岩手県DX推進計画との関係

いわて県民計画（2019～2028）の個別計画として位置付けられている「岩手県DX推進計画」における、4つの取組方針（行政のDX、産業のDX、社会・暮らしのDX、DXを支える基盤整備）の各種取組内容について、整合性を確認しつつ、本戦略を推進していきます。

② 自治体デジタル・トランスフォーメーション（DX）推進計画との関係

自治体が重点的に取り組むべき事項・内容を具体化した「自治体DX推進計画」が掲げる「自治体DXの重点取組事項」のうち、（2）マイナンバーカードの利用促進、（3）自治体の行政手続のオンライン化、等市民の生活の利便性向上に直接寄与する分野については、盛岡市行政デジタル・トランスフォーメーション推進計画と連携の上で、本戦略を推進していきます。

関連する既存計画（戦略）との関係性



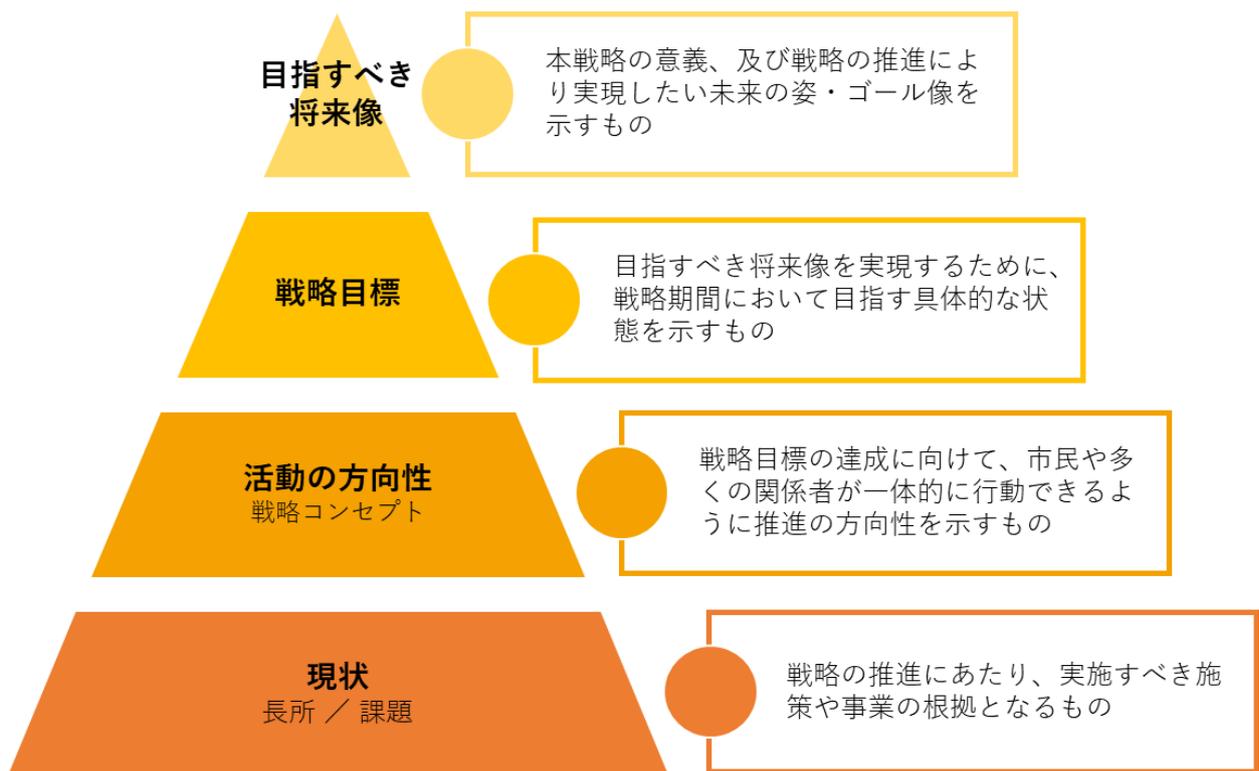
第2章 基本方針

1. 全体像

本戦略を効果的に推進するため、次のとおり体系を整理します。

本戦略の推進を通して本市が目指すべき将来像を定め、その達成のため、戦略期間における戦略目標を設定します。この戦略目標の達成に向けては、多くの関係者の協働が必要であり、一体的に進むために活動の方向性を定めます。

なお、活動の方向性は、現状の本市の長所や課題を基に定めています。(次頁から下図の順に沿って各詳細を説明します。)



2. 目指すべき将来像

本戦略で目指すべき将来像は、地域資源を活かしたデジタルの活用を基本とした「過去と未来の“盛岡らしさ”を支えるデジタル化の推進」とします。この将来像は、デジタル化の推進により市として地域の持続的な成長と市民のよりよい暮らしを目指すためのものであり、具体的には、デジタルの活用により、輝く未来の創造だけではなく、地域として培ってきた文化や歴史、自然といった長所を活かした魅力ある“盛岡らしさ”が支えられていることを表します。

もともと、すべての事柄をデジタル化するのではなく、人と人とのつながりや、対面でのコミュニケーション等、いわゆる“アナログ”による対応が必要な場面においては、従来のアナログ的な対応も大切にしながら、デジタルの活用を進めていきます。

そして、この将来像の実現には、デジタル化の推進により便利で快適な日常生活においても、力強い地域経済のもと、安全・安心で魅力あるまちを実感できることが必要です。そのために“市民の生活”（便利で快適な日常の暮らし）、“地域の経済”（力強い地域経済）、“まちづくり・文化”（安全・安心で魅力あるまち）の3つの視点から本戦略を推進し、目指すべき将来像を実現します。

なお、目指すべき将来像を実現していくにあたり、デジタル化推進に関する情報を市民に発信したうえで、市民からの意見を具体的な事業に反映させ、本戦略を推進していきます。

目指すべき将来像

過去と未来の“盛岡らしさ”を支える デジタル化の推進

市民の生活



市民の誰もがデジタルの恩恵を受けられること

地域の経済



地域のあらゆる産業がデジタル化推進を起点に活性化していること

まちづくり・文化



地域の魅力が掘り起こされ、安全・安心な住み続けたいまちが実現されていること

3. 戦略目標及び KPI

目指すべき将来像の実現に向けて、3つの視点から盛岡市総合計画の4つの基本目標との関係を踏まえ、戦略目標及び KPI を設定します。

■ 視点1「市民の生活」

本視点は、人口減少や少子高齢化に伴う医療・福祉及び子育て・教育問題といった社会課題の解決と、地域コミュニティを活かした住みやすい・過ごしやすい生活環境の更なる価値向上を目指すために必要な視点であり、盛岡市総合計画の基本目標「人がいきいきと暮らすまちづくり」及び「人を育み未来につなぐまちづくり」に対応するものです。市民一人ひとりにデジタル化による恩恵が広くいきわたり、よりよい“盛岡らしい”暮らしが実現されていることを目指し、「市民の誰もがデジタルの恩恵を受けられること」を戦略目標と定めます。

デジタルの恩恵を受けるための一つの方法として、情報通信機器を適切に利用できることが重要であり、また様々な人が利用できることが“誰もが恩恵を受けられる”ことにつながることから、KPI 指標を「情報通信機器等を利用できない人ができる人との間に格差を感じる割合」とします。

戦略目標	市民の誰もがデジタルの恩恵を受けられること
------	-----------------------

KPI 指標名	単位	現状値	目標値
情報通信機器等を利用できない人ができる人との間に格差を感じる割合 ²	%	59.4	23.0

■ 視点2「地域の経済」

本視点は、持続可能な経済社会の実現に向けた、本市の産業構造の偏在や労働生産性の向上、若者世代の市外流出や新たな人材の獲得・育成といった社会課題の解決と、盛岡広域圏における連携中枢都市として広域における産業や都市機能の集積拠点としての自立した経済循環の仕組みづくり、魅力ある農畜産物の開発等の更なる価値向上を目指すために必要な視点であり、盛岡市総合計画の基本目標「人が集い活力を生むまちづくり」に対応するものです。本市が抱える資源・資産が活用され、地域で育ててきた“盛岡らしさ”を残したまま、新たな技術・知見を活用し、デジタルの力で地域経済の成長・発展が実現されていることを目指し、「地域のあらゆる産業がデジタル化推進を起点に活性化していること」を戦略目標と定めます。

² 「市民アンケート調査」の“デジタル化の進展により生じる影響”にて“情報通信機器を利用できる人とできない人との間に格差が生じる”を選択したものの割合

地域のあらゆる産業がデジタル化により成長・発展することで、地域経済が豊かになることから、KPI 指標を「デジタル化の推進により業績が令和 4 年度と比較して向上した企業の割合」とします。

戦略目標	地域のあらゆる産業がデジタル化推進を起点に活性化していること
------	--------------------------------

KPI 指標名	単位	現状値	目標値
デジタル化の推進により業績が令和 4 年度と比較して向上した企業の割合	%	— ³	60.0

■ 視点 3 「まちづくり・文化」

本視点は、社会インフラの老朽化や公共交通機関の不便さ、環境保全といった社会課題の解決と、本市が抱える歴史的建造物や豊かな自然、文化人や工芸品、祭りや飲食物といった観光地としての魅力ある資源・資産の更なる価値向上を目指すために必要な視点であり、盛岡市総合計画の基本目標「盛岡の魅力があふれるまちづくり」に対応するものです。デジタル化を通じて本市が抱える課題を解決し、今ある文化を守りながら、“盛岡らしい”新たな価値を創造して本市の魅力あふれる持続可能な社会が実現されていることを目指し「地域の魅力が掘り起こされ、安全・安心な住み続けたいまちが実現されていること」を戦略目標と定めます。

安全・安心なまちとは、市民にとって快適で暮らしやすいまちであることから、KPI 指標は「デジタル化により快適で生活しやすい環境になったと感じる人の割合」とします。

戦略目標	地域の魅力が掘り起こされ、安全・安心な住み続けたいまちが実現されていること
------	---------------------------------------

KPI 指標名	単位	現状値	目標値
デジタル化により快適で生活しやすい環境になったと感じる人の割合	%	— ⁴	32.5

³ 令和 4 年度に実施した「【盛岡市】地域のデジタル化推進に向けた企業アンケート」において、デジタル化の推進により業績（売上、利益）の向上を期待する企業等が 61.0%だった。

⁴ 「盛岡市まちづくり評価アンケート」の満足度調査にて、「快適で暮らしやすい居住環境を整える取組」において“とても満足”または“やや満足”の合計が 23.2%だった。

4. 活動の方向性

戦略目標の達成には、多くの関係者が協働により一体的に本戦略を推進していくことが重要となることから、戦略コンセプトを「デジタルの力で盛岡の良さを紡いで伸ばす ～誇れる地元をみんなで積み重ねて育てていく～」と定め、それに基づく「3つの視点」における具体的な活動の方向性を次のとおり定めます。

4-1. 視点1「市民の生活」

市民一人ひとりにデジタル化による恩恵が広く行きわたることで市民の利便性が向上し、よりよい“盛岡らしい”暮らしの実現を目指し、次の3つを活動の方向性としします。

活動の方向性① 一人ひとりにやさしいデジタル化の推進

→ 高齢者も子どもも障がい者も置き去りにすることなく、デジタル格差を解消し、すべての市民が参加できるやさしいデジタル社会を目指します。

活動の方向性② 生活に根差したデジタル化の推進

→ 地域コミュニティの維持・活性化を促進する等、デジタル活用の恩恵を市民生活に広く行きわたらせ、みんなが住みたい・住み続けたいと思える環境を目指します。

活動の方向性③ 生涯にわたって便利に暮らせる社会の構築

→ 単独世帯、核家族世帯、三世帯世帯等、市民の様々な世帯構成やライフステージに合わせた生活環境を充実させ、生涯にわたり便利に暮らせる社会を目指します。

4-2. 視点2「地域の経済」

本市にある資源・資産が活用され、地域で育んできた“盛岡らしさ”を残したまま、新たな技術・知見を活用し、デジタル化による地域経済の成長・発展の実現を目指し、次の3つを活動の方向性としします。

活動の方向性④ 地域資源とデジタルを組合わせた魅力的な事業やサービスの創出

→ 本市が持つ良質な資源とデジタル化を掛け合わせた付加価値の高いサービスの創出し、地域経済の成長・発展を目指します。

活動の方向性⑤ 地元の企業及び事業所の業務効率化・生産性向上の推進

→ デジタル化の推進による地元の企業及び事業所の業務効率化・生産性向上を実現し、労働者不足問題等の解消を目指します。

活動の方向性⑥ 人・技術・知見が集まる環境の整備

→ 市内外や首都圏から、特にデジタル技術に関する高いスキルを持った企業・人材が集まる環境を目指します。

4-3. 視点3「まちづくり・文化」

デジタル化によって本市が抱える課題を解決し、今ある文化を守りながら新たな“盛岡らしさ”が創造され、盛岡の魅力があふれる持続可能な社会の実現を目指し、次の3つを活動の方向性とします。

活動の方向性⑦ 持続的かつ革新的な価値を持つ地域づくりの推進

→ 歴史的街並みや文化等、“盛岡らしさ”を守りながらも、デジタル活用により新しい技術・知見を取り入れ、更に価値を高めていくことを目指します。

活動の方向性⑧ 安全・安心な都市インフラ環境の整備

→ これからも便利に暮らすことができるよう、安全・安心な都市インフラ機能の強化のためにデジタル活用による効率的な手法の推進を目指します。

活動の方向性⑨ 関係人口増加のためにまちの魅力を発信

→ デジタル技術を活用して本市の魅力を積極的・効果的に打ち出し、関係人口の増加を目指します。

5. 現状（本市の主な長所と課題）

「盛岡市総合計画」や「第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」のほか、市民ワークショップや市民アンケートの結果を踏まえ、本市の現状を整理しました。詳細については、参考2から4までに示します。

5-1. 視点1「市民の生活」

“市民の生活”の視点における現状は、次のとおりです。

現状	No.	内容	活動の方向性
長所	1	コンパクトで住みやすい・過ごしやすい環境	①
	2	治安がよく、災害が少ない安全・安心な環境である ⁵	②
	3	教育や医療分野等の中核機能を有す	③
	4	保育所待機児童数0の達成 ⁶	
課題	5	デジタルリテラシーによる情報格差の拡大が懸念される	①
	6	公共空間での通信環境のさらなる整備が望まれている	
	7	買い物等におけるキャッシュレス決済が普及していない	②
	8	町内会や民生委員等の地域の担い手が不足し、地域コミュニティの維持が困難になってきている ⁷	
	9	災害への備えと迅速な情報発信が求められている	
	10	除雪状況及びそれに伴う道路情報の発信が不足している	
	11	CO ₂ 削減を含めた地球環境の保全と自然との共生が求められる	③
	12	地域福祉、高齢者福祉、障がい者福祉の推進が必要	
	13	健康づくり・医療環境の拡充が必要	
	14	出会いや結婚の支援、出産・子育てに対する不安の軽減が望まれている ⁸	
	15	子育て・教育の支援、仕事と子育ての両立のためのワーク・ライフ・バランスの推進が必要 ⁹	

⁵ 「第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、P.27

⁶ 「第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、P.13

⁷ 「盛岡市総合計画 [実施計画] 2022-2024」、P.71

⁸ 「第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、P.38

⁹ 「第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、P.38

5-2. 視点2「地域の経済」

“地域の経済”の視点における現状は、次のとおりです。

現状	No.	内容	活動の方向性
長所	1	魅力ある農畜産物がある（盛岡りんご、もりおか短角牛等）	④
	2	地域発展に取り組む企業・事業所及び企業経営者が多い	
	3	産学官連携研究センター及び新事業創出支援センター等のインキュベーション施設が充実している ¹⁰	⑤
課題	4	地元の企業・事業所や事業の後継者人材が不足している ¹¹	④
	5	市内の卸・小売の事業所数や従業員が減少傾向にある ¹²	
	6	中心市街地における居住人口が減少傾向にある	
	7	中心市街地の小売年間販売額が減少している ¹³	
	8	中小零細企業・事業所が活用しやすい支援施策が求められている	
	9	労働生産性が低い傾向にある	
	10	デジタル化推進や導入時の資金援助が望まれている	⑤
	11	海外展開を視野に入れた新市場の開拓・販路拡大に着手している企業・事業所が少ない ¹⁴	
	12	デジタルスキル取得、デジタルツール活用に向けた支援体制の構築が十分でない	
	13	デジタル人材獲得・育成に向けた投資支援が十分でない	⑥
	14	若者や女性が希望する就職先として“地元”が定着しておらず、就職支援や魅力的な雇用創出が必要である ¹⁵	
	15	起業支援、企業誘致、新事業拡大に向けた人材獲得・育成・支援が必要	

¹⁰ 「第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、P. 27

¹¹ 「盛岡市総合計画〔実施計画〕2022-2024」、P. 138

¹² 「盛岡市総合計画〔実施計画〕2022-2024」、P. 138

¹³ 「第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、P. 25

¹⁴ 「盛岡市総合計画〔実施計画〕2022-2024」、P. 129

¹⁵ 「第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、P. 25

5-3. 視点3「まちづくり・文化」

“まちづくり・文化”の視点における現状は、次のとおりです。

現状	No.	内容	活動の方向性
長所	1	盛岡城や大慈寺地区の町家、岩手銀行赤レンガ館等の歴史的建造物が多い	⑦
	2	サッカーやバスケットボール等のプロスポーツクラブが地域に根付いている	
	3	盛岡さんさ踊りや盛岡三大麺、喫茶店等、観光先として魅力的な資源がある（米ニューヨーク・タイムズ紙）	
課題	4	海外・東京圏に対する情報発信が十分でない ¹⁶	⑦
	5	インバウンド需要を踏まえた海外旅行者への適切な対応が必要 ¹⁷	
	6	都市基盤施設の維持、強化及び老朽化したインフラへの対応が必要 ¹⁸	⑧
	7	デジタル決済や電子掲示板等の公共交通機関の利便性向上が求められている	
	8	市民の生活利便性をさらに向上させるため、渋滞緩和を含めた交通環境の構築が必要	
	9	関係人口の増加、移住・定住人口増加を促進する必要がある	

¹⁶ 「第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、P. 46

¹⁷ 「盛岡市総合計画〔実施計画〕2022-2024」、P. 149

¹⁸ 「盛岡市総合計画〔実施計画〕2022-2024」、P. 158

前章で整理した現状を踏まえ、各活動の方向性に対するデジタル化の推進に関する取組方針、及び活動目標を次のとおり設定します。

活動の方向性① 一人ひとりにやさしいデジタル化の推進

(1) デジタル格差の解消

年齢、性別、障がいの有無、出身によるデジタル格差を解消することを目指します。

【主な取組】

- ・ モバイル端末等活用講習の実施
- ・ 地域におけるデジタル化サポート組織等の結成
- ・ 市が開設したサイトのウェブアクセシビリティ対応の徹底
- ・ 視覚聴覚障がい者、外国人に対する通訳アプリ端末の行政窓口設置 等

(2) 公共サービスのデジタル化推進

行政手続や本市が保有するデータの活用等、公共サービスのデジタル化を推進することで、市民の利便性向上を目指します。

【主な取組】

- ・ 行政手続のオンライン化
- ・ 24時間対応の問い合わせ対応サービスの導入
- ・ オープンデータの推進 等

(3) ネットワーク環境の向上

市内のネットワーク環境を向上させることで、市民のデジタル活用の利便性向上や災害対策（災害時におけるネットワーク環境）の確保を目指します。

【主な取組】

- ・ 公共空間、公共施設への通信環境の整備 等

活動目標は、一人ひとりにやさしいデジタル化の推進に向けて次のとおりとします。

活動目標 1

誰もがデジタル化の恩恵を受けられる

活動の方向性② 生活に根差したデジタル化の推進

(4) 市民の利便性向上のための市民アプリ（MORIO ペイ等）の利用拡大

地域循環型決済ツールである MORIO ペイ等を活用し、市民参加型アプリとしての利用機会を拡大することで、市民の利便性の向上を目指します。

【主な取組】

- ・ 市内でのキャッシュレス決済の普及促進
- ・ MORIO ペイ登録者数及び加盟店数の拡大
- ・ MORIO ペイの地域決済機能と連携した市民サービスの提供 等

(5) デジタル活用による地域コミュニティ活動の改善

デジタルサービスやツールの活用等により、地域コミュニティ活動の利便性向上を目指します。

【主な取組】

- ・ 電子回覧版等、自治会・町内会の情報発信媒体のデジタル化推進 等

(6) 防犯・防災情報の発信強化

市民に向けた防犯・防災情報の発信強化を推進することで、安全・安心で便利に暮らしていける環境の構築を目指します。

【主な取組】

- ・ SNS 等を活用した防犯情報の発信
- ・ 災害データを活用した危険地域予測
- ・ SNS 等を活用した除排雪情報の発信 等

(7) デジタル活用による環境負荷の低減推進

デジタルを活用した環境負荷の低減を推進することで、自然にやさしく住みやすい環境の整備を目指します。

【主な取組】

- ・ 地域脱炭素・循環型社会の構築等による持続可能な地域づくりの支援
- ・ 地域の豊かな自然資本（再生可能エネルギー、自然環境）をデジタル技術で有効・適正に活用 等

活動目標は、生活に根差したデジタル化の推進に向けて次の2つとします。

活動目標 2	市民向けアプリ等デジタルサービスが地域で活用されている
活動目標 3	市民向けアプリと連携したサービスが5つ提供されている

活動の方向性③ 生涯にわたって便利に暮らせる社会の構築

(8) 健康データを活用した医療・介護の推進

診療情報や脈拍・血圧等の健康データを活用した医療・介護の推進により、質の高い医療・介護サービスの提供を目指します。

【主な取組】

- ・ 電子連絡帳の活用促進
- ・ デジタルヘルス分野（医療、介護、福祉）関連企業・事業所に対する支援拡充 等

(9) デジタル活用による婚姻数・出生数の増加

デジタルサービスやツールの整備・活用により、市内における結婚の支援及び子どもを産み育てやすい環境を目指します。

【主な取組】

- ・ 結婚マッチングサポート
- ・ 母子手帳アプリ『母子モ』の拡充
- ・ 24時間対応の問い合わせ対応サービスの導入（再掲） 等

(10) デジタル活用による子育て・教育環境の改善

デジタルサービスやツールの整備・活用により、子どもの見守り、教育環境の向上等、仕事と子育てを両立するための環境を目指します。

【主な取組】

- ・ 保育所（園）、幼稚園のデジタル活用推進
- ・ 市立学校におけるデジタル環境整備の推進
- ・ 育児のためのテレワーク環境やワーク・ライフ・バランス向上への整備支援 等

活動目標は、生涯にわたって便利に暮らせる社会の構築に向けて次の3つとします。

活動目標 4	デジタル活用による効果的・効率的な医療・福祉を提供できる環境を整備する
活動目標 5	デジタル活用による安心した子育て・教育が望める環境を整備する
活動目標 6	市立小・中学校における1人1台端末を授業で週3回以上利用している割合が小学校にて85.1%、中学校にて81.2%以上を達成する

活動の方向性④ 地域資源とデジタルを組合わせた魅力的な事業やサービスの創出

(11) デジタル活用による「盛岡ブランド」の展開

デジタルサービスやツールの活用等により、地場産業の成長・拡大による盛岡ブランドの更なる価値向上を目指します。

【主な取組】

- ・ 地場産業のデジタル化推進支援
- ・ 地場産業とスタートアップとのマッチングプラットフォームの整備
- ・ 後継者人材の獲得・育成支援 等

(12) 地域内循環経済の促進を促すための市民アプリ（MORIO ペイ等）の利用拡大

地域循環型決済ツールである MORIO ペイ等、地域通貨の利用可能場所を拡充することで、地域内循環経済の向上を目指します。

【主な取組】（再掲）

- ・ 市内でのキャッシュレス決済の普及促進
- ・ MORIO ペイ登録者数及び加盟店数の拡大
- ・ MORIO ペイの地域決済機能と連携した市民サービスの提供 等

活動目標は、本市の持つ良質な資源とデジタルを組合わせた魅力的な事業やサービスの創出に向けて次の2つとします。

活動目標 7	地域にある特産品等をデジタル活用により全国に広める
活動目標 8	ふるさと納税制度による寄附額が年間5億円を達成する

活動の方向性⑤ 地元の企業及び事業所の業務効率化・生産性向上の推進

(13) 地元の企業及び事業所のビジネス拡大・再成長の支援

企業・事業所それぞれの状況に応じて、段階的にデジタル化推進を支援することで、ビジネス拡大・再成長による地場産業や地元企業・事業所の既存事業の成長・深化を目指します。

【主な取組】

- ・ デジタル推進に関連する中小企業及び事業所支援制度の拡充
- ・ デジタル活用による販路拡大支援 等

(14) デジタル人材の獲得・育成の推進

デジタル人材やスキルの獲得・育成の推進を支援することで、地元の企業及び事業所の業務効率化・労働生産性向上を目的としたデジタル化推進を目指します。

【主な取組】

- ・ デジタルスキル取得支援
- ・ 高度 IT 人材候補として地元理工系大学からの人材獲得支援
- ・ 首都圏デジタル人材と地場企業及び事業所とのマッチングプラットフォームの整備 等

活動目標は、地元の企業及び事業所の業務効率化・生産性向上の推進に向けて次のとおりとします。

活動目標 9	デジタル活用により、企業・事業所の付加価値及び労働生産性の向上を実現する
--------	--------------------------------------

活動の方向性⑥ 人・技術・知見が集まる環境の整備

(15) デジタル活用による地域の雇用環境の改善

デジタルサービスやツールの活用により地域における雇用環境の改善を図ることで、持続的な経済発展に必要な人材・技術・知見が集積されることを目指します。

【主な取組】

- ・ 市外（東京圏）企業・事業所のサテライトオフィス招致拡大 等

(16) 多様な人材確保に向けた支援

多様な人材の確保への支援を行うことで、今後のデジタル社会到来に向けて重要な資源となるデジタル人材が本市に集まる環境整備を目指します。

【主な取組】

- ・ デジタル人材が集まる拠点（シェアオフィス等）の整備
- ・ 本市の資産（町家等）を活かしたワーケーション推進 等

活動目標は、人・技術・知見が集まる環境の整備に向けて次の2つとします。

活動目標 10	人材・技術が集積するプラットフォームが形成され、新たな仕事や技術が生み出されている
活動目標 11	AI・IoTプラットフォームに200社以上の企業が参画している

活動の方向性⑦ 持続的かつ革新的な価値を持つ地域づくりの推進

(17) デジタル活用による地域資源（歴史・文化・スポーツ等）の価値向上

デジタルサービスやツールを活用した地域資源（歴史・文化・スポーツ等）の価値向上を推進することで、“盛岡らしさ”を守りながら持続的かつ革新的な地域発展を目指します。

【主な取組】

- ・ スポーツ・アート等の文化資産に対するデジタル化の推進 等

(18) デジタル活用による観光客への情報発信・観光対応の推進

デジタルサービスやツール活用により観光客（特にインバウンド）に対する情報発信・観光対応を推進することで、本市の交流人口の増加を目指します。

【主な取組】

- ・ デジタル観光マップによる市内情報の一元化、外国人対応 等

活動目標は、持続的かつ革新的な価値を持つ地域づくりの推進に向けて次の2つとします。

活動目標 12	本市のもつ良質な資源をデジタル技術を活用し、地域発展につなげる
活動目標 13	デジタル観光マップの閲覧数が 50,000 回を超える

活動の方向性⑧ 安全・安心な都市インフラ環境の整備

(19) 交通環境のデジタル化推進

交通環境のデジタル化を推進することで、来訪者や市民の移動に関する利便性向上や活発な産業活動の促進を目指します。

【主な取組】

- ・ 公共交通機関における IC カード搭載率の向上
- ・ デジタル×モビリティによる利便性向上 等

(20) デジタル活用による都市インフラの高度化推進

デジタルサービスやツール活用による都市インフラの高度化を推進することで、安全・安心な都市インフラ機能の強化を目指します。

【主な取組】

- ・ ICT や AI 活用による都市インフラの維持管理

- ・ 都市空間情報のデジタル基盤構築 等

活動目標は、安全・安心な都市インフラ環境の整備に向けて次の2つとします。

活動目標 14	デジタル活用により効率的で安全な都市インフラを整備する
活動目標 15	デジタルデバイス等から取得したデータを活用・解析した渋滞対策等の交通施策を10件提案する

活動の方向性⑨ 関係人口増加のためにまちの魅力を発信

(21) デジタルの活用による本市の魅力発信

デジタルサービスやツール活用により、本市の持つ魅力を積極的・効果的に発信することで、盛岡ならではの魅力や価値である盛岡ブランドを展開し、関係人口の増加促進とともに市内外の多くの人がつながるまちを目指します。

【主な取組】

- ・ デジタルコミュニティ活動による魅力発信
- ・ デジタルマーケティングを活用した魅力発信 等

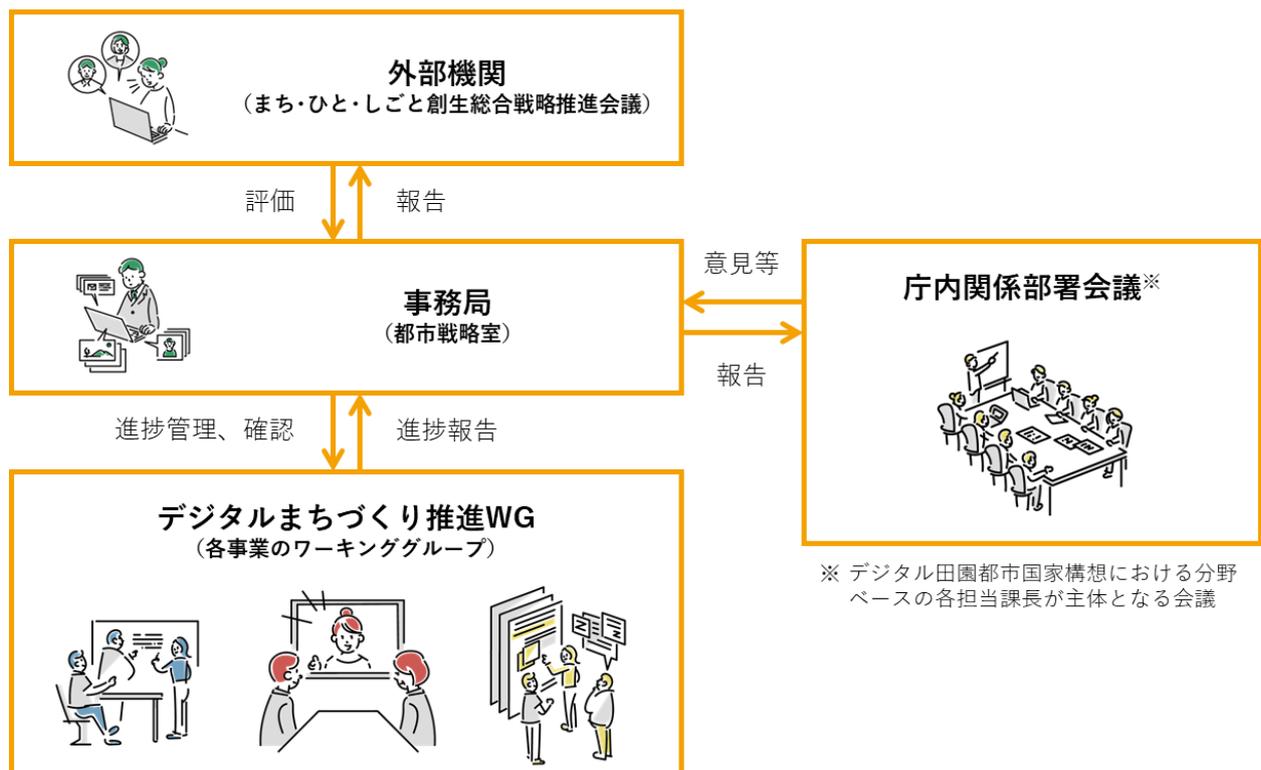
活動目標は、魅力発信による関係人口の増加に向けて次のとおりとします。

活動目標 16	デジタル活用により本市の魅力を積極的・効果的に打ち出す
---------	-----------------------------

第4章 推進体制

戦略の推進にあたっては、実施事業の関係部署の担当職員で構成する「デジタル化によるまちづくり推進ワーキンググループ (WG)」を設置し、本戦略における取組方針に即した事業を推進します。また、事務局は、各 WG の事業について進捗管理を行い、「庁内関係部署会議」へ報告します。庁内関係部署会議では、戦略の実行状況や各 WG における効率的な事業推進のための各種調整やアドバイスを実施します。

これらの結果について、外部機関である「まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」に報告し、戦略の進捗について評価を受けます。



組織	主な役割
外部機関 (まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議)	<ul style="list-style-type: none"> 策定された戦略の進捗状況の検証及び検証結果を踏まえた推進戦略の見直しのために有識者から意見を伺う 委員は、「盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進会議メンバーが参画する
デジタルまちづくり推進 WG (各取組の WG)	<ul style="list-style-type: none"> 事業毎に関係部署の担当職員で構成する 実施内容に応じて、市職員だけでなく、企業等もワーキングメンバーとして参画する
庁内関係部署会議	<ul style="list-style-type: none"> 策定された戦略の報告に対して意見等を行う WG の効率的な推進のための各種調整やアドバイスを実施する
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 各デジタル化によるまちづくり推進 WG の管理を行い、庁内関係部署会議へ進捗状況を報告する 上記結果を外部機関であるまち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議へ報告する

本戦略の実施にあたり、「サイバーセキュリティ基本法」、「サイバーセキュリティ戦略」、「地方公共団体における情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」、「情報セキュリティ対策に関する規定」に基づく適切な情報セキュリティを確保するほか、「個人情報の保護に関する法律」及び「個人情報の保護に関する条例」に基づく適切なデータの公開、運用を図ることとし、個人情報やプライバシーの保護を徹底しながら、データ活用に係る市民の不安の払拭に努めることとします。

参考

1. デジタル田園都市国家構想

2022年6月に基本方針が閣議決定され、デジタルインフラを整備して官民双方で地方におけるデジタル・トランスフォーメーション（DX）を積極的に推進するために、①デジタルの力を活用した地方の社会課題解決、②デジタル田園都市国家構想を支えるハード・ソフトのデジタル基盤整備、③デジタル人材の育成・確保、④誰一人取り残されないための取組を4つの柱として取組を推進するとしています。



デジタル田園都市国家構想が目指すのは、地域の豊かさをそのままに、都市と同じ又は違った利便性と魅力を備えた、魅力溢れる新たな地域づくりです。具体的には、「暮らし」や「産業」等の領域で、デジタルの力で新たなサービスや共助のビジネスモデルを生み出しながら、デジタルの恩恵を地域の皆様に届けていくことを目指すとされています。



参照：デジタル庁（デジタル田園都市国家構想）

2022年12月に閣議決定された「デジタル田園都市国家構想総合戦略」の基本的な考え方として「デジタル田園都市国家構想総合戦略（2023年度～2027年度）内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局」にて次のとおり示されています。

【総合戦略の基本的考え方】

- テレワークの普及や地方移住への関心の高まり等、社会情勢がこれまでとは大きく変化している中、今こそデジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化し、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す。
- 東京圏への過度な一極集中の是正や多極化を図り、地方に住み働きながら、都会に匹敵する情報やサービスを利用できるようにすることで、地方の社会課題を成長の原動力とし、地方から全国へとボトムアップの成長につなげていく。
- デジタル技術の活用は、その実証の段階から一層の段階に着実に移行しつつあり、デジタル実装に向けた各府省庁の施策の推進に加え、デジタル田園都市国家構想交付金の活用等により、各地域の優良事例の横展開を加速化。
- これまでの地方創生の取組も、全国で取り組まれてきた中で蓄積された成果や知見に基づき、改善を加えながら推進していくことが重要。

【総合戦略のポイント】

- まち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改訂し、2023年度から2027年度までの5か年の新たな総合戦略を策定。デジタル田園都市国家構想基本方針で定めた取組の方向性に沿って、各府省庁の施策の実現・具体化を図るとともに、KPIとロードマップ（工程表）を位置づけ。
- 地方は、地域それぞれが抱える社会課題等を踏まえ、地域の個性や魅力を生かした地域ビジョンを再構築し、地方版総合戦略を改訂。地域ビジョン実現に向け、国は政府一丸となって総合的・効果的に支援する観点から、必要な施策間の連携をこれまで以上に強化するとともに、同様の社会課題を抱える複数の地方公共団体が連携して、効果的かつ効率的に課題解決に取り組むことができるよう、デジタルの力も活用した地域間連携の在り方や推進策を提示。

総合戦略の基本的考え方

▶ テレワークの普及や地方移住への関心の高まりなど、社会情勢がこれまでとは大きく変化している中、今こそデジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化し、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す。
 ▶ 東京圏への過度な一極集中の是正や多極化を図り、地方に住み働きながら、都会に匹敵する情報やサービスを利用できるようにすることで、地方の社会課題を成長の原動力とし、地方から全国へとボトムアップの成長につなげていく。
 ▶ デジタル技術の活用は、その実証の段階から実装の段階に着実に移行しつつあり、デジタル実装に向けた各府省庁の施策の推進に加え、デジタル田園都市国家構想交付金の活用等により、各地域の優良事例の横展開を加速化。
 ▶ これまでの地方創生の取組も、全国で取り組まれてきた中で蓄積された成果や知見に基づき、改善を加えながら推進していくことが重要。
 <総合戦略のポイント>

- まち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改訂し、2023年度から2027年度までの5か年の新たな総合戦略を策定。デジタル田園都市国家構想基本方針で定めた取組の方向性に沿って、各府省庁の施策の実現・具体化を図るとともに、KPIとロードマップ（工程表）を位置づけ。
- 地方は、地域それぞれが抱える社会課題等を踏まえ、地域の個性や魅力を生かした地域ビジョンを再構築し、地方版総合戦略を改訂。地域ビジョン実現に向け、国は政府一丸となって総合的・効果的に支援する観点から、必要な施策間の連携をこれまで以上に強化するとともに、同様の社会課題を抱える複数の地方公共団体が連携して、効果的かつ効率的に課題解決に取り組むことができるよう、デジタルの力も活用した地域間連携の在り方や推進策を提示。

施策の方向

デジタルの力を活用した地方の社会課題解決

デジタルの力を活用して地方の社会課題解決に向けた取組を加速化・深化

- 1 地方に仕事をつくる
スタートアップ・エコシステムの確立、中小・中堅企業DX（キャッシュレス決済、シェアリングエコノミー等）、スマート農林水産業・食品産業、観光DX、地方大学を核としたイノベーション創出 等
- 2 人の流れをつくる
「移住しやすき住」の推進、オンライン関係人口の創出・拡大、二地域居住等の推進、地方大学・高校の魅力向上、女性や若者に選ばれやすい地域づくり 等
- 3 結婚・出産・子育ての希望をかええる
結婚・出産・子育ての支援、仕事と子育ての両立など子育てしやすい環境づくり、こども政策におけるDX等のデジタル技術を活用した地域の様々な取組の推進 等
- 4 魅力的な地域をつくる
教育DX、医療・介護分野DX、地域交通・インフラ・物流DX、まちづくり、文化、スポーツ、国土強靱化の強化等、地域コミュニティ機能の維持・強化 等

地方のデジタル実装を支援

デジタル実装の基礎条件整備

デジタル実装の前提となる取組を国が強力に推進

- 1 デジタル基礎の整備
デジタルインフラの整備、マイナンバーカードの普及促進・利活用拡大、データ連携基盤の構築（デジタル社会実装基盤全国総合整備計画の策定等）、ICTの活用による持続可能性と利便性の高い公共交通ネットワークの整備、エネルギーインフラのデジタル化 等
- 2 デジタル人材の育成・確保
デジタル人材育成プラットフォームの構築、職業訓練のデジタル分野の重点化、高等教育機関等におけるデジタル人材の育成、デジタル人材の地域への還元促進、女性デジタル人材の育成・確保 等
- 3 誰一人取り残されないための取組
デジタル推進委員の展開、デジタル共生社会の実現、経済的事情等に基づくデジタルデバイドの是正、利用者視点でのサービスデザイン体制の確立 等

地域ビジョンの実現に向けた施策間連携・地域間連携の推進

<モデル地域ビジョンの例>

- スマートシティ スーパーシティ
- 「デジタル」中山間地域
- 産学官 協創都市
- SDGs 未来都市
- 観光DX
- 先行地域

<重要施策分野の例>

- 地域交通のり、デザイン
- 遠隔医療
- 地方創生 テレワーク
- 観光DX

地域ビジョン実現を後押し

<施策間連携の例>

関連施策の取りまとめ

- ✓ 関係府省庁の施策を取りまとめ、地方にわかりやすい形で提示

重点支援

- ✓ モデルとなる地域を選定し、進定地の評価・支援

優良事例の横展開

- ✓ 他地域のモデルとなる優良事例の周知・共有、横展開

伴走型支援

- ✓ ワンストップ型相談体制の構築や地方支分部局の活用等による伴走型支援

<地域間連携の例>

デジタルを活用した取組の深化

- ✓ 自治体間連携の枠組みにおけるデジタル活用の取組を促進

重点支援

- ✓ 国が事業の採択や地域の選定等を行う際に、地域間連携を行う取組を評価・支援

優良事例の横展開

- ✓ 地域間連携の優良事例を収集し、メニューブック等を適して広く周知・共有

参照：内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局（デジタル田園都市国家構想総合戦略）

2. 市民ワークショップ実施結果

本戦略の策定にあたり、デジタルを活用した本市の未来の理想社会を考える市民ワークショップを次のとおり実施しました。

	内容
実施日時	2022年11月19日（土） 13:30～15:30
実施場所	パルクアベニュー・カワトク cube-II 地下1階 「盛岡という星で BASE STATION」
参加者	計11名（10代～70代）
実施内容	1. 本市のデジタル化推進に向けた取組の現状やデジタル先進都市事例の紹介 2. WS（テーマ：デジタルを活用した盛岡の未来の理想社会を考える） <ul style="list-style-type: none"> ● STEP 1：“盛岡の現状と課題”を考えよう ● STEP 2：“目指すべき盛岡市の姿”を考えよう ● STEP 3：“デジタル推進で叶えてほしいサービスと期待したい施策”を考えよう

ワークショップを実施して得られた結果を下表に整理します。

項目	内容
総論	<ul style="list-style-type: none"> ・年代問わず、岩手山や川等豊かな自然を本市の良いところとして挙げる声が多く、他にも食や祭り等の文化に対して良さを感じている ・交通の不便さや娯楽施設の少なさ等地方に共通する課題とともに、東北地方ならではの雪に関する課題感が多い ・本市の良さを活かして若者が残りたいと思うまち、そして子どもからお年寄りまですべての市民が安全に暮らせるまちを目指したらよいのではないかという意見が挙がった
盛岡市の現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人・食・自然・文化の観点で盛岡の良さを感じている市民が多い ・公共交通機関の不便さや若者の流出、娯楽施設の少なさ等地方に共通してみられるような課題に関してもグループ問わず意見が挙がった ・降雪地ならではの課題感を持つ市民が多い ・除雪そのものに関する悩みのほか、そこから派生して朝夕の渋滞や雪解けによる道路の劣化に困るという声や、冬場に遊べる施設が欲しいという声も聞かれた

項目	内容
<p>目指すべき 盛岡市の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・労働や子育て等複数分野の環境を整えることで「若者が残るまち」を目指すべき姿として挙げる声が多い ・若者だけでなく高齢者にとっても便利で安全なまちにしたい等、デジタル化の恩恵が幅広くいきわたってほしいという市民の思いが大きい ・本市の魅力を市民が感じながら暮らすことはもちろん、その良さを市外にも発信できるまちを目指したいという、長所をいかしたブランディングや集客に積極的な意見も挙がった
<p>叶えてほしい サービス・ 期待したい施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生目線では、移動手段の要となるバスや電車の利便性を高めてほしいという声や電子決済サービス導入店舗の拡大を期待する意見が挙がった ・社会人目線では、特に若者の雇用拡大や、自身の働き方の刷新を望むようなアイデアが比較的多くみられた ・家族目線では、子どもの教育や医療サービスの充実、お年寄りの見守り等に関してデジタル推進を期待できるのではないかという意見が挙がった



3. 市民向けアンケート調査実施結果

本戦略の策定にあたり、市民向けアンケート調査を次のとおり実施しました。

	内容
実施日時	2022年11月29日（火）～2023年1月13日（木）
回答数	169件
実施方法	Google フォーム（盛岡市 WEB ページ） ※ トップページ > 市政情報 > 市の政策・企画 > 盛岡市のデジタル・トランスフォーメーション（DX）に関する取り組み > 盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略 > 盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略の策定
アンケート設問	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在、所有している情報通信機器をすべてお答えください 2. 現在、利用している SNS をすべてお答えください 3. 盛岡市で提供しているデジタル行政サービス（インターネットで提供しているサービス）で利用したことがあるものをすべてお答えください 4. 盛岡市のことをよく知らない友人・知人から「盛岡の魅力は何？」と尋ねられたとしたら、あなたはどのように伝えますか？ 5. 盛岡にキャッチフレーズをつけるとしたら、何とつけますか？ 6. それぞれ今の生活で困っている程度をすべてお答えください 7. デジタル化によって Q6 のどのお困りごとが解消すると期待できるかすべてお答えください 8. デジタル化推進に期待することをすべてお答えください 9. デジタル化推進で不安に思うことをすべてお答えください 10. 盛岡市が実施するデジタル化推進の取組として、特に力を入れてほしいと思う取組 3 つを選んでください 11. Q10 で選択したもので、具体的な内容があればお答えください 12. 市のデジタル化推進施策についてご要望・ご意見等がありましたらご記入ください

上記調査結果については、別紙の”盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略策定に係る基礎資料“に詳細を取りまとめています。

4. 盛岡市内企業向けアンケート調査実施結果

本戦略の策定にあたり、盛岡市内企業向けアンケート調査を次のとおり実施しました。

	内容
実施日時	2022年11月29日（火）～2023年1月13日（木）
回答数	67件
実施方法	Google フォーム（盛岡市 WEB ページ） ※ トップページ > 市政情報 > 市の政策・企画 > 盛岡市のデジタル・トランスフォーメーション（DX）に関する取り組み > 盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略 > 盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略の策定
アンケート設問	<p>【デジタル化推進状況について】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 貴社として、デジタル化推進の必要性をお答えください 2. Q1で回答いただいた理由をお答えください 3. 貴社は積極的にデジタル化を推進しているか、お答えください (Q3で「積極的にデジタル化促進をしている」と回答いただいた方) 4. 貴社のデジタル化推進状況について、どのように感じているかお答えください 5. Q4で回答いただいた理由をお答えください 6. 貴社で既に取組んでいる（または取組んだ）デジタル推進施策をすべてお答えください 7. Q6で選択したものの具体的な内容についてお答えください 8. 貴社におけるデジタル化推進に向けた施策を実施した結果についてお答えください 9. 貴社で取組んでいるデジタル推進施策について、業績”外”の部分におけるプラスの影響についてすべてお答えください 10. 貴社で取組んでいるデジタル推進施策について、業績”外”の部分におけるマイナス影響についてすべてお答えください (Q3で「積極的にデジタル化促進をしていない」と回答いただいた方) 11. 貴社が積極的にデジタル化を推進していない最大の理由をお答えください

	項目
アンケート 設問	<p>【デジタル化推進に向けた課題】</p> <p>12. 貴社のデジタル化推進に向けた課題をすべてお答えください</p> <p>13. Q12 で選択したもので、課題解決に向けた具体的な方法があればお答えください</p> <p>14. 貴社におけるデジタル化推進に対して期待する程度をお答えください</p> <p>15. 貴社のデジタル化推進に向けて盛岡市（行政）に期待したいことをすべてお答えください</p> <p>16. Q15 で選択したもので、具体的な内容についてお答えください</p> <p>【盛岡市のデジタル化推進への取組】</p> <p>17. 盛岡市が実施するデジタル化推進の取組として、特に力を入れてほしいと思う取組3つを選んでください</p> <p>18. Q17 で選択したもので、具体的な内容があればお答えください</p> <p>19. 盛岡市のデジタル化施策についてご要望・ご意見等がありましたらご記入ください</p>

上記調査結果については、別紙の” 盛岡市デジタル化によるまちづくり推進戦略策定に係る基礎資料 “に詳細を取りまとめています。

5. 盛岡らしさ

本戦略では、デジタル化の推進を通じて、本市がもつ“良さ”や“らしさ”を活かした新たな魅力の創出を目指しています。本市には、豊かな自然のほか、歴史や文化等数多くの資源や、やさしく温かい人情味あふれた市民に対して、多くの観光客や関係者から魅力的といわれる多くの“良さ”があります※。

そのような本市が持っている“良さ”に通じる多くの市民が感じる盛岡“らしさ”については、次のとおり、「盛岡ブランド推進計画（2005～2014）」にて記された“盛岡らしさ6か条”を準用します。

<盛岡らしさ6か条>

1. 【風土】周囲を山に囲まれ、清らかな水に恵まれ、身近にある自然と寒さの厳しい気候風土の中で、凛として芯が強い気骨ある人材と清々しい人柄を育む。(ならば盛岡らしい)
2. 【人情】分かち合いの気持ちやもてなしの心で、人と人との絆を大切にしよう人々がおおり、住み続けたい気持ちを深める。(ならば盛岡らしい)
3. 【まちなみ】四季の彩が鮮やかで、まちなかに懐かしさの残るまちなみがあり、おだやかな風情を感じ誰でも歩いて楽しめる。(ならば盛岡らしい)
4. 【芸術文化】啄木・賢治等時代を先駆ける文学者を育み、市民文化が豊かで、芸術家たちが暮らし、集いあう。(ならば盛岡らしい)
5. 【特産品】他の文化を柔軟に取り入れ自らの工夫を取り入れた特色ある文化や飾らず質の高い伝統の技を継承し、本物の良さを追求している。(ならば盛岡らしい)
6. 【拠点性・広域性】北東北の人・情報の交流の場であり、文化を「創造・発信」する。(ならば盛岡らしい)

※ 米ニューヨーク・タイムズ紙（電子版）が2023年1月12日に発表した「2023年に行くべき52カ所」の1つに本市が次の理由等により選ばれました。

- 大正時代に建てられた和洋折衷の建築や現代的なホテルのほか、伝統的な旅館がある
- 城跡も公園になっていて、歩いて楽しめる街
- 東京から新幹線にて短時間で行ける距離にあり、人混みを避けて歩いて楽しめる美しい場所
- 市内のコーヒーショップやわんこそばの店、40年以上続くジャズ喫茶等食の魅力

6. デジタル化推進に向けた取組方針 一覧表

視点1「市民の生活」

活動の方向性	取組方針	主な取組	活動目標	現状	現状の分類
① 一人ひとりにやさしいデジタル化の推進	(1) デジタル格差の解消	モバイル端末等活用講習の実施	1. 誰もがデジタル化の恩恵を受けられる	デジタルリテラシーによる情報格差の拡大が懸念される	課題
		地域におけるデジタル化サポート組織等の結成			
		市が開設したサイトのウェブアクセシビリティ対応の徹底			
		視覚聴覚障がい者、外国人に対する通訳アプリ端末の行政窓口設置			
	(2) 公共サービスのデジタル化推進	行政手続のオンライン化		コンパクトで住みやすい・過ごしやすい環境	長所
		24時間対応の問い合わせ対応サービスの導入			
オープンデータの推進					
(3) ネットワーク環境の向上	公共空間、公共施設への通信環境の整備	公共空間での通信環境のさらなる整備が望まれている	課題		
② 生活に根差したデジタル化の推進	(4) 市民の利便性向上のための市民アプリ（MORIO ペイ等）の利用拡大	市内でのキャッシュレス決済の普及促進	2. 市民向けアプリ等デジタルサービスが地域で活用されている	買い物等におけるキャッシュレス決済が普及していない	課題
		MORIO ペイ登録者数及び加盟店数の拡大			
		MORIO ペイの地域決済機能と連携した市民サービスの提供			
	(5) デジタル活用による地域コミュニティ活動の改善	電子回覧版等、自治会・町内会の情報発信媒体のデジタル化推進	3. 市民向けアプリと連携したサービスが5つ提供されている	町内会や民生委員等の地域の担い手が不足し、地域コミュニティの維持が困難になってきている	課題
(6) 防犯・防災情報の発信強化	SNS等を活用した防犯情報の発信	治安がよく災害が少ない安全・安心な環境である	長所		

活動の方向性	取組方針	主な取組	活動目標	現状	現状の分類		
		災害データを活用した危険地域予測		災害への備えと迅速な情報発信が求められている	課題		
		SNS等を活用した除排雪情報の発信		除雪状況及びそれに伴う道路情報の発信が不足している	課題		
	(7) デジタル活用による環境負荷の低減推進	地域脱炭素・循環型社会の構築等による持続可能な地域づくりの支援 地域の豊かな自然資本（再生可能エネルギー、自然環境）をデジタル技術で有効・適正に活用		CO ₂ 削減等も見据えた地球環境の保全と自然との共生が求められる	課題		
③ 生涯にわたって便利に暮らせる社会の構築	(8) 健康データを活用した医療・介護の推進	電子連絡帳の活用促進	4. デジタル活用による効果的・効率的な医療・福祉を提供できる環境を整備する 5. デジタル活用による安心した子育て・教育が望める環境を整備する 6. 市立小・中学校における1人1台端末を授業で週3回以上利用している割合が小学校にて85.1%、中学校にて81.2%以上を達成する	教育や医療の分野等において中枢機能を持つ	長所		
		デジタルヘルス分野（医療、介護、福祉）関連企業・事業所に対する支援拡充		地域福祉、高齢者福祉、障がい者福祉の推進が必要	課題		
	(9) デジタル活用による婚姻数・出産数の増加	結婚マッチングサポート		健康づくり・医療環境の拡充が必要	課題		
		母子手帳アプリ『母子モ』の拡充		出会うや結婚の支援、出産・子育てに対する不安の軽減が望まれている	課題		
		24時間対応の問い合わせ対応サービスの導入		保育所待機児童数0を達成	長所		
	(10) デジタル活用による子育て・教育環境の改善	保育所（園）、幼稚園のデジタル活用推進		子育て・教育の支援、仕事と子育ての両立のためのワーク・ライフ・バランスの推進が必要		課題	
		市立学校におけるデジタル環境整備の推進					
				育児のためのテレワーク環境やワーク・ライフ・バランス向上への整備支援			

視点2 「地域の経済」

活動の方向性	取組方針	主な取組	活動目標	現状	現状の分類	
④ 地域資源とデジタルを 組合わせた魅力的な事 業やサービスの創出	(11) デジタル活用による 「盛岡ブランド」の 展開	地場産業のデジタル化推進支 援	7. 地域にある特産品 等をデジタル活用に より全国に広める	魅力ある盛岡産農畜産物がある (盛岡りんご、もりおか短角牛 等)	長所	
		地場産業とスタートアップと のマッチングプラットフォームの整備		地元企業の事業所や事業の後継 者人材が不足している	課題	
		後継者人材の獲得・育成 支援		市内の卸・小売の事業所数や従業 員が減少傾向にある	課題	
	(12) 地域内循環経済の促 進を促すための市民 アプリ (MORIO ペイ 等) の利用拡大	市内でのキャッシュレス決済 の普及促進	8. ふるさと納税制度 による寄附額が 15 億円を達成する	中心市街地における居住人口が減 少傾向にある	課題	
MORIO ペイ登録者数及び加盟 店数の拡大		中心市街地の小売年間販売額が減 少している		課題		
MORIO ペイの地域決済機能と 連携した市民サービスの提供						
⑤ 地元の企業及び事業所 の業務効率化・生産性 向上の推進	(13) 地元の企業及び事業 所のビジネス拡大・ 再成長の支援	デジタル推進に関連する 中小企業及び事業所支援制度 の拡充	9. デジタル活用によ り、企業・事業所の 付加価値及び労働生 産性の向上を実現す る	中小零細企業・事業所が活用しや すい支援施策が求められている	課題	
		デジタル活用による販路 拡大支援		労働生産性が低い傾向にある	課題	
	(14) デジタル人材の獲 得・育成の推進	デジタルスキル取得支援		デジタル活用により、企業・事業所の 付加価値及び労働生 産性の向上を実現す る	デジタル化推進や導入時の資金援 助が望まれている	課題
					地域発展に取り組む企業及び企業 経営者が多い	長所
			産学官連携研究センター及び新事 業創出支援センター等のインキュ ベーション施設が充実している	長所		
			海外展開を視野に入れた新市場の 開拓・販路拡大に着手している企 業が少ない	課題		
			デジタルスキル取得、デジタルツ ール活用に向けた支援体制の構築 が十分でない	課題		

活動の方向性	取組方針	主な取組	活動目標	現状	現状の分類
		高度 IT 人材候補として地元理工系大学からの人材獲得支援 首都圏デジタル人材と地場企業及び事業所とのマッチングプラットフォームの整備		デジタル人材獲得・育成に向けた投資支援が十分でない	課題
⑥ 人・技術・知見が集まる環境の整備	(15) デジタル活用による地域の雇用環境の改善	市外（東京圏）企業・事務所のサテライトオフィス招致拡大	10. 人材・技術が集積するプラットフォームが形成され、新たな仕事や技術が生み出されている	若者や女性が希望する就職先として“地元”が定着しておらず、就職支援や魅力的な雇用創出が必要である	課題
	(16) 多様な人材確保に向けた支援	デジタル人材が集まる拠点（シェアオフィス等）の整備 本市の資産（町家等）を活かしたワーケーション推進	11. AI・IoT プラットフォームに 200 社以上の企業が参画している	起業支援、企業誘致、新事業拡大に向けた人材獲得・育成・支援が必要	課題

視点3「まちづくり・文化」

活動の方向性	取組方針	主な取組	活動目標	現状	現状の分類
⑦ 持続的かつ革新的な価値を持つ地域づくりの推進	(17) デジタル活用による地域資源（歴史・文化・スポーツ等）の価値向上	スポーツ・アート等の文化資産に対するデジタル化の推進	12. 本市のもつ良質な資源をデジタル技術を活用し、地域発展につなげる 13. デジタル観光マップの閲覧数が50,000回を超える	盛岡城や大慈寺地区の町家、岩手銀行赤レンガ館等の歴史的建造物	長所
				サッカーやバスケットボール等のプロスポーツクラブが地域に根付いている	長所
	(18) デジタル活用による観光客への情報発信・観光対応の推進	デジタル観光マップによる市内情報の一元化、外国人対応		盛岡さんさ踊りや盛岡三大麺、喫茶店等、観光先として魅力的な資源がある （米ニューヨーク・タイムズ紙）	長所
				海外・東京圏に対する情報発信が十分でない	課題
				インバウンド需要を踏まえた海外旅行者への適切な対応が重要となる	課題
⑧ 安全・安心な都市インフラ環境の整備	(19) 交通環境のデジタル化推進	公共交通機関におけるICカード搭載率の向上 デジタル×モビリティによる利便性向上	14. デジタル活用により効率的で安全な都市インフラを整備する 15. デジタルデバイス等から取得したデータを活用・解析した渋滞対策等の交通施策を10件提案する	デジタル決済や電子掲示板等の公共交通機関の利便性向上が求められている	課題
				市民の生活利便性をさらに向上させるため、渋滞緩和を含めた交通環境の構築が必要	課題
	(20) デジタル活用による都市インフラの高度化推進	ICTやAI活用による都市インフラの維持管理 都市空間情報のデジタル基盤構築		都市基盤施設の維持・強化、及び老朽化したインフラへの対応が必要	課題
⑨ 関係人口増加のためにまちの魅力を発信	(21) デジタルの活用による本市の魅力発信	デジタルコミュニティ活動による魅力発信	16. デジタル活用により本市の魅力を積極的に・効果的に打ち出す	関係人口の増加、移住・定住人口増加を促進する必要がある	課題
		デジタルマーケティングを活用した魅力発信			

7. 用語集

用語	解説	該当頁
E コマース	電子商取引であり、Electronic Commerce の略称。ネット通販等、インターネットを介してモノやサービスの売買、契約することを表す。	P. 1
リモートワーク(テレワーク)	ICTを活用することによる、場所や時間にとらわれない働き方のこと。(例在宅勤務、モバイルワーク、サテライトオフィス等での勤務)	P. 1
デジタル田園都市国家構想	地方からデジタルの実装を進め、新たな変革の波を起こし、地方と都市の差を縮めていくことで、地方の魅力を維持しながら、都市と変わらない利便性や生活の充実を目指す構想。	P. 1
デジタル田園都市国家構想総合戦略	デジタル田園都市国家構想を実現するために、各府省庁の施策を充実・強化し、施策ごとに 2023 年度から 2027 年度までの 5 か年の KPI (重要業績評価指標) とロードマップ(工程表)を位置づけたもの。	P. 1
DX(デジタル・トランスフォーメーション)	ウメオ大学(スウェーデン)のエリック・ストルターマン教授が平成 16(2004)年に提唱した、「ICTの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念。英語圏で「Trans」を「X」と略すことから、デジタルによる変革(Digital Transformation)は「DX」と略される。	P. 4
IT	Information Technology の略で、情報通信技術のこと。コンピュータやデータ通信に関する技術を総称的に表す語として用いられることが多い。	P. 4
デジタルリテラシー	インターネットを中心にデジタル情報や通信について、さらにはそれらを活用するパソコンやスマートフォン等の機器やアプリについて知識を持ち、利用する能力のこと。	P. 12
キャッシュレス決済	お札や小銭等の現金を使用せずにお金を払うこと。クレジットカード、電子マネー、デビットカード、スマートフォンやインターネットを使った支払い等がこれにあたる。	P. 12
ワーク・ライフ・バランス	仕事と生活の調和。仕事と育児や介護、趣味等の仕事以外の生活とのバランスを取り、両方を充実させる働き方や生き方のこと。ICTを利用したテレワーク等を取り入れることでよりよいバランスを実現できるようになってきている。	P. 12

用語	解説	該当頁
インキュベーション	新規事業の立ち上げを目指す新人起業家を総合的に支援し、企業の成長を促進させるシステム。「総合的な支援」には、経営指南、資金援助、顧客の紹介、施設の提供等が含まれる。	P. 13
労働生産性	従業員1人当たり、どれだけの付加価値を生み出しているのかを表す指標。	P. 13
インバウンド	外から中へ入り込むこと。一般的には外国人の訪日旅行のことを指す。	P. 14
デジタル格差	インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者の間に生じる格差。	P. 15
ウェブアクセシビリティ	高齢者や障害者を含めて、誰もがホームページ等で提供される情報や機能を支障なく利用できること。	P. 15
オープンデータ	国、地方公共団体及び事業者が保有する官民データのうち、国民誰もがインターネット等を通じて容易に利用（加工、編集、再配布等）できるよう、①営利目的、非営利目的を問わず二次利用可能なルールが適用されたもの、②機械判読に適したものの、③無償で利用できるもの、といういずれの項目にも該当する形で公開されたデータのこと。	P. 15
MORIO ペイ	盛岡 ValueCity 株式会社が運営する地域の電子マネー。加盟店でキャッシュレス決済をすると、100円につき1ポイント（1円分）が貯まる仕組み。	P. 16
プラットフォーム	情報やサービス・商品がやり取りされる場、環境を指す。ユーザーグループの数に応じて、ツーサイド・プラットフォーム、マルチサイド・プラットフォーム等の種類がある。	P. 18
デジタルヘルス	情報通信技術、デジタル技術を活用したヘルスケアのこと。デジタル技術を活用し、予防から治療、回復まで、健康を維持あるいは取り戻すためのすべての行為。	P. 17
スタートアップ	革新的なビジネスモデルによって社会にイノベーションを生み出すことで、起業から短期間で急成長を遂げる企業のこと。	P. 18
サテライトオフィス	オフィスと自宅の中継地となるような場所に設置された小さな分散型オフィス。オフィスと同等の仕事をこなすため、通信回線によりオフィスと連絡し合える設備を持つ。	P. 20

用語	解説	該当頁
シェアオフィス	複数の企業・ワーカーで共用で使うオフィスのこと。プロジェクトで一定期間使う、契約した企業のワーカーが時間借りする等、利用形態は運営主体が提供するサービスによって異なる。机・椅子・ネットワーク設備等の実務環境を共有しながら仕事を行う場所。	P. 20
ワーケーション	ワーク（仕事）とバケーション（休暇）を組み合わせた造語。リゾート地等で休みを取りつつ（または引っ越しして）テレワークをする働き方を指す。	P. 20
ICT	Information and Communications Technology の略で、情報通信技術のこと。情報・通信に関連する技術一般の総称であり、従来用いられてきた「IT」とほぼ同義だが、国際的には ICT が広く使われている。	P. 22
AI	Artificial Intelligence の略。人間の脳で行っている学習、推測、分析、判断等の知的な作業をコンピュータ上で実現しようとする技術のこと。	P. 22
モビリティ	可動性、流動性のこと。具体例としては、人の移動に使われる乗り物としての、電車や自動車のこと。特に自動車分野を指していることが多い。	P. 22
デジタルマーケティング	様々なチャネル（Web サイト、Eメール、SNS、スマートフォンアプリ、IoT 等）を通して得られる消費者のデジタルなデータを活用してマーケティングを行う手法のこと。	P. 22
WG（ワーキンググループ）	委員会等の中に設置される、具体的・実務的な作業や調査をする集まり。	P. 23

発行日 令和5年3月31日
発行 盛岡市
編集 盛岡市市長公室企画調整課都市戦略室
電話 019-613-8370(直通) FAX 019-622-6211
E-mail toshisen@city.morioka.iwate.jp
